

助教・潮 征爾

大学院生命科学部 臨床系 代謝・循環医学 循環器内科学

▶ 研究内容

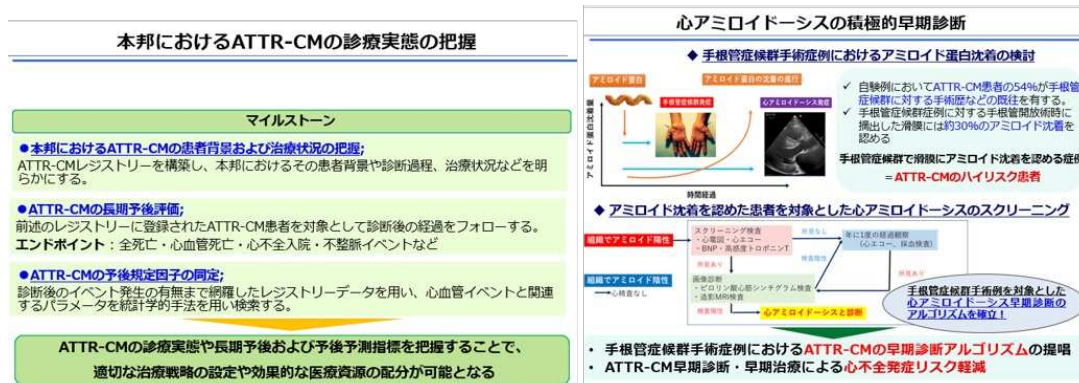
【背景・目的】

熊本大学はアミロイドーシス診療センターを有しており、本邦における心アミロイドーシス研究の中心的な施設である。我々は高齢者に多く潜在的に存在するトランスサイレチン型心アミロイドーシス(ATTR-CM)を中心に疫学データの収集、早期診断を目的とする研究を立案した。

【研究概要】

【トランスサイレチン型心アミロイドーシスについて】

- ・ 高齢になるほど心不全の罹患率は上昇し、超高齢化社会を迎えた我が国はまさにいま「心不全パンデミック」を迎えている。
- ・ 高齢者心不全の原因疾患としてトランスサイレチンを前駆蛋白とするトランスサイレチン型心アミロイドーシス ATTR-CM が注目されており、従来考えられていたより頻度の高い疾患であると考えられるが、ATTR-CMの実態は十分に把握できていない。→ATTR-CMの診療実態把握が必要
- ・ 2019年よりタファミジスという治療薬が承認されたが、進行を抑制する薬剤であるため早期診断、早期治療が予後改善のためには必要である。→ATTR-CMの積極的早期診断が必要



▶ 提供できる技術

・ 本邦におけるATTR-CMの有病率や患者背景、予後因子が明らかになることで高齢者心不全における本疾患の与える影響や治療適応となる患者像が明らかになる ・ 手根管症候群症例に対する積極的な心アミロイドーシスのスクリーニングが早期診断および早期治療につながり、心不全発症のリスクを軽減することが期待される

▶ 参考資料

- ・ Yamada T.et al. ESC Heart Fail. 7, 2829-2837 (2020) ・ Marume K.et al. Circ J. 83, 1698-1708 (2019) ・ Takashio S et al. ESC Heart Fail. 5, 27-35 (2018) ・ 心アミロイドーシス診療ガイドライン作成協力員(2020年)

▶ キーワード

心不全パンデミック 心アミロイドーシス 早期診断 heart failure pandemic cardiac amyloidosis early diagnosis 医歯薬学領域 内科系臨床医学 循環器内科学